

「ありがとう」の言葉よりも

感染がまた勢いを増してきたということ、他学年との接触を避けるために掃除を先週からしていませんね。教室の汚れ具合、乱れ具合はどうですか。私の見る限り、雑巾は使われていないので乱れを目にすることはほとんどありません。しかし、教室の細部やロッカーの中には目立たない汚れや乱れがあるようです。あなたの学級では、汚れや乱れをみつけたらどうしていますか。

左下の写真に写っている生徒は、二年C組のTNさんです。場所は理科室。六時間目の授業終了後に、黒板のチョーク受けにたまった粉を小ぼうきで掃いている姿です。先に書いたように、感染症対策で掃除を中止していますので、彼女は汚れをみつけて自分の判断で取り組んだのです。まさに、主体的な掃除の姿と言えますね。

恐らく皆さんの学級にも、自分で考え判断して掃除に取り組んでいる仲間がいるのではないのでしょうか。そういう仲間にあなたは気付いていますか。先日、ほとんどの生徒が下校した後、たまたま事情があって校舎内に残っていた生徒たちが、生徒玄関や階段前を掃いていました。そういう姿は、人がいなくなったり、いたとしても周りの者がそれに気付く心の余裕がなかったりした時に見られることが多いようです。

掃除がなければ、黒板のチョーク受けに粉が雪のようにたまっていてもおかしくないと思います。黒板下の床はチョークの粉で真っ白になっているはず。ゴミ箱もゴミであふれてもおかしくないでしょう。そうならないなかつたら、あなたの教室ではだれかが主体的に動いていると言えますね。

三年生はうっすらとも覚えていと思いますが、三年前、掃除がない火曜日木曜日を中心に、汚れをみつけて主体的に掃除する生徒がたくさんいました。その姿が、これまたコロナのせいで少しずつなくなっていくきました。しかし、写真のTNさんや、下校後に掃除に取り組んだ生徒のように、その主体性を受け継いでくれている人たちがいて、私は本当にうれしく思います。

掃除に時間に掃除に取り組むというのは、どこの学校でも同じです。珍しいことでも何でもありません。それさえできなければ、中学生としての自覚が疑われます。汚れや乱れをみつけたら、自分で判断して動く……これができて初めて誇れる姿となるのです。

私はよく雑巾をかけ直します。それを見て、多くの人が「ありがとうございます。当たり前のことをしてしているだけです。雑巾のすから。私がつれしくなるのは、雑巾の掛け方の乱れに気付いて、自分から直す生徒や職員の姿が見られた時です。主体性の火を消さないように、学校全体で守っていきましょう。」(一月二十四日記)

